

松本純弥先生が第42回日本生物学的精神医学会年会にて 日本生物学的精神医学会若手研究者育成プログラム奨励賞を受賞!

* 受賞演題 *

「統合失調症患者と健常被験者における拡散テンソル画像を用いた大脳白質微細構造と認知機能、認知機能障害、労働時間との関連」

* 研究概要 *

統合失調症は陽性症状と陰性症状に加え、認知機能障害が中核的な症状とされています。認知機能障害は特定のドメインではなく幅広く低下するため、大脳全体の障害が予想されます。統合失調症患者の脳構造に関する報告は大脳皮質全体の全般的な異常が報告されてきましたが、病態解明、治療に結び付く結論は出ていません。そこで、本研究では大脳白質微細構造とIQ、認知機能障害及び社会的予後に直結した労働時間との相関を検討しました。大脳白質微細構造の指標には、拡散テンソルイメージング(DTI)を実施し関連領域(ROI)のFractional Anisotropy(FA)値を算出しました。さらに主成分分析により19のROIからglobal FA(gFA)値と6つの連合線維からlong association tracts gFA(LA-gFA)値を算出しました。推定IQ、認知機能障害、ウェクスラー式成人認知機能検査の全検査IQ、労働時間それぞれで解析した結果、健常群、統合失調症群でともに有意な相関はありませんでした。gFA値・LA-gFA値はともに現在の認知機能及び認知機能障害、労働時間を説明するとは言えませんでした。今後、症例数や施設数を増やした解析が望まれます。認知機能障害と労働時間については、統合失調症患者で認知機能障害があると労働時間が短いことが報告されていることから、引き続き脳全体の異常との関連を探索的に研究することが望まれます。

